

いわちゃん ポスト

千葉県議会議員

岩井 やすのり



専大卒・早大院修了 52 歳 / 3 期目現職(印西市・栄町選挙区)
栄町安食台 2-26-23 fax0476-36-7802 mail@iwai-y.jp

県審議会が市町村へ直接指導

がん対策を強化

3 月県議会・予算委員会に登壇した岩井は、がん検診の精度管理に関する課題を指摘。取組みの強化が求められる市町村等については、新たに県がん対策審議会が直接に指導することが明らかとなりました。

●がん検診の精度管理は県の責務

がん検診・精度管理とは、市町村や検診実施機関（以下、検診機関）について、検診受診率や精検（精密検査）受診率などのプロセス指標や、チェックリストと呼ばれる検診に関わる点検項目を調査・管理すること。県は市町村や検診機関ごとに事業評価を行い、がん検診の精度を維持する責務があります。

●一部検診機関「回答と実態異なる」

それまで県内市町村や集団検診機関の精度管理状況について、チェックリストの遵守状況などにより調査を行ってきた中、平成 29 年度には初めて個別検診機関についても調査を実施しています。しかし、「回答が実態と異なる機関があった」「必要な項目を調査できないケースがあった」などの問題が露呈。令和 2 年度の第 2 回調査では一部改善されたものの、調査結果の公開が行われていない等の課題が残っています。

「チェックリスト」の項目例

	項目内容
受診者への説明	・精密検査結果は市町村等へ報告すること等を説明しているか（※）
問診等の精度管理	・胃部エックス線撮影の枚数は最低 8 枚とし、仕様書にも撮影枚数を明記しているか ・胃部エックス線撮影に携わる技師は、日本消化器学会が認定する胃がん検診専門技師の資格を取得しているか
システムとしての精度管理	・受診者への通知・説明、そのための市町村へへの結果報告は、遅くとも検診受診後 4 週間以内になされているか

※精密検査結果は個人情報保護法の例外事項として、個人の同意がなくても市町村等に提供できることとなっています。

カワウ対策で新たに枝伐採へ 印西・北総花の丘公園

県立北総花の丘公園内の調整池に生息し、糞などの生活環境被害をもたらしているカワウ問題。6/14 には民放テレビ番組でも取り上げられ、市民の関心が高まる中、県はカワウ対策として、周辺樹木の枝払いを実施することを決めています。



●「洗濯物を干せない」「車のボンネットが汚れる」

日本各地の川や河口付近に生息するカワウ。1970 年代には環境汚染などにより全国で 3 千羽にまで減少したものの、水質が改善され現在は約 7 万羽にまで増えています。過去には花の丘公園内に 2 千羽近いカワウが確認されており、これは県内生息数の 3 割に上っていたことになります。

問題となっているのは、糞による生活環境被害

です。カワウの糞は窒素やリンを含有しているため、公園内の草木を根元から枯らすなど自然環境に深刻な影響を与えています。また、公園に隣接する住宅街では、「糞の臭いがひどい」「洗濯物を外に干しておけない」「車のボンネットが汚れる」などの悲鳴が上がっているのです。

●巣作り前の 7～10 月までに作業を行いたい

地元自治会では関係機関に対しカワウ対策を求めてきたものの、十分な効果が得られてこなかったのが実情。県土木事務所は今年度、これまで行ってきたリンロンテープの設置に代わり、木の伐採（枝払い）を行うとのことです。対象となるのは、例年カワウが巣作りをしてきた、池に面する約 2600 平米で、巣作りを始める前の 7 月から 10 月に作業を行いたいとしています。

ただ、作業を行う現場の特殊性から水面側から伐採を行わなければならない、その困難さから手を挙げる業者は多くありません。7/6 時点で競争入札を実施要件である「3 者以上の見積もり」がなく、作業日程が定まらない状況となっています。

県担当課は枝払いによる対策を集中して行うべく、業者選定に全力と尽くしたいとしているところ。効果が上がる時期は限られており、岩井としても引き続き働きかけてまいります。



す。しかし、実際に踏み込んだ指導を行った事例はほとんどなく、その実行性が問われてきました。そのような中、今年 2 月に開催された県がん対策審議会予防・早期発見部会において、同部会から特に評価が低い市町村や検診機関に対し、その原因を分析し改善策の報告を行うよう、直接に求めることが決定。県による助言、指導機能を形骸化させないとの狙いです。そもそも県民のがん罹患率や死亡率を改善するためには、問題ある機関について検診機関として認めない等の厳しい措置を行ってでも、がん検診の精度を管理する必要があります。引き続き県による対応を求めてまいります。

牧の原小学校周辺の「見えない横断歩道」年内補修へ

子どもたちの安全を脅かしかねない、見えない・見えにくい横断歩道。印西市・牧の原小学校に子どもが通う保護者からのご指摘を受け、学校周辺の横断歩道の一斉点検、問題箇所の補修が行われることとなりました。

●通学児童を見守るママさんからメール

保護者の方よりメールにてご連絡をいただいたのは5月下旬のこと。子どもたちの登校の見守り活動を行う中で、消えかかった横断歩道や停止線を目の当たり



要補修の横断歩道(印西市牧の原)

にし、早急に直してもらおうよう働きかけしてもらえないかとの内容です。

特にご指摘いただいたのは、ジョイフル本田千葉NT店の北側にある2つのT字路交差点。横断歩道や停止線の路面塗装が著しく摩耗し、見えづらくなっている(写真上)ことに加え、横断歩道の30m、50m手前に表示されるべき「ダイヤモンドマーク」(写真下)の塗装も消えかかっており、これでは自動車運転者が横断歩道の存在を認識できません。

また、牧の原小学校から約500mの範囲について点検すると、こうした消えかかっている横断歩道が他にも少なくないことがわかります。地域には一戸建ての住宅が急増し、児童、生徒が多い上、近隣には商業施設が立ち並び、車両の通行が絶えないだけに、早期の対応が望まれるところです。

●「地域からの要望により把握、対応」が実態

ところで、県警は横断歩道での交通事故防止のため、安全に横断歩道を渡れる環境整備に力を入れてきたと言います。実際、令和2年度中に3億6600万円をかけ約2千500か所、令和3年度中には4億4700万円をかけ約2千800か所の横断歩道等の補修を行ってきました。

しかし、横断歩道の摩耗状況の把握と補修については、県内2万1千か所ある横断歩道を計画管理しているわけではありません。地域からの指摘や要望により摩耗状況を把握した上で、個別対応しているというのが実態なのです。

●周辺横断歩道の一斉点検、年内補修が決定

牧の原小学校周辺の横断歩道については、6月初旬に県警担当課との協議を行い、一斉点検の実施と問題箇所の補修を強く要望。所轄の印西警察署による現地確認を行った後、6月末までに「2つのT字路交差点横断歩道を含む問題箇所について、年内に補修を行う」との回答があったところです。

既述の通り、行政による横断歩道や道路の補修等は「要望による対応」が実態。身近にお気づきの問題がありましたら、気兼ねなく岩井までご連絡ください。



県道鎌ヶ谷本埜線バイパス 1年遅れで4年度開通へ



●旧長門川橋設置箇所の軟弱地盤で再延期

栄町と印西市・印旛日本医大地区間、4.5キロを結ぶ県道鎌ヶ谷本埜線バイパス。千葉ニュータウン地区と栄町、成田、茨城との間のアクセ



ボックスカルバート

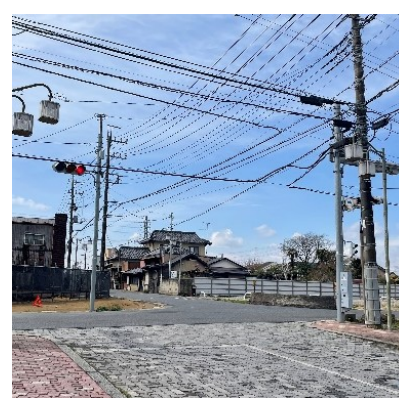
ス向上が期待される同事業ですが、管渠工事(ボックスカルバート施工)が難航し、「4年度開通見込み」と工程はさらにずれこんでいます。

問題となってきたのは旧長門川橋の架橋工事。架橋とはいえ、実際は「ボックスカルバート」と呼ばれるコンクリート状の箱を設置する管渠工事となっているわけですが、その設置箇所の地盤が想定以上に軟弱であったため、地盤改良工事に多くの時間が割かれることとなったものです。現在は河川を締め切る仮設工事に追加対策を実施しており、4年度中の開通を見込むものの、その時期はまだ見通せない状況。そもそもは令和2年春の開通が予定されていた同事業の再度の延期であり、地元からも一日も早い開通を期待する声が上がっています。

●安食交差点は面積ベース57%の用地取得

一方、安食交差点に右折レーンを設置する改良事業は、令和2年度より用地取得に着手

しており、現在、面積ベースで57%分の取得が完了。引き続き、地元自治体などの協力を得ながら、残る用地の取得を進めていくとのことです。同事業は、右折車線を設置する本体工事と、歩道や歩行者待機場所などを設置する付帯工事に分けられますが、関連する用地が確保でき次第、本体工事を先に着手、完成させることも想定されています。



安食交差点(栄町安食)

安食交差点は右折車による慢性的な渋滞に加え、児童生徒をはじめとする歩行者と自動車との接触事故も懸念されており、その改良は積年の課題。未だ完成時期は見通せないものの、目の見える形での事業の進捗がいち早く実現されるよう、働きかけてまいります。